

大阪府立母子保健総合医療センターにおける  
母子感染実態調査

末原 則幸

要約 大阪府立母子保健総合医療センターにおける母子感染の実態を調査した。1993年GBSは妊婦の6.12%に HBsは0.73% HBeは0.30%であった。1991-1993年の間に 新生児のGBS感染は6例、CMV感染は3例、先天梅毒は1例あった

見出し語：母子感染、 実態調査

研究方法

1987年から1992年までの間に当院で出産した妊婦と新生児の感染症合併について昨年報告したが 今年には1993年に当院で出産した1650人と新生児1462人の感染症について調査した。また母児感染防止の立場から、妊婦に対する感染症スクリーニングの項目を拡大した。

当センターでは従来、妊婦全員に対して 梅毒血清反応 B型肝炎(HBs)抗原 風疹IgM抗体 および臍GBS培養検査をおこなっていた。その他の感染症 例えば水痘 ヘルペ

ス クラミジア、トキソプラズマ、サイトメガロウイルス リンゴ病などの抗体検査は妊婦全員ではなくそれぞれ必要に応じ行っている。

なお、1993年より全妊婦のうち、書面によるインフォームドコンセントが得られた妊婦に対し C型肝炎抗体 HIV抗体 ATLA抗体のスクリーニング検査をもあわせて行っている。

また、地域全体での感染症スクリーニングの実態を知るために、大阪地区の母体搬送受け入れ病院における感染症をはじめとする妊婦スク

大阪府立母子保健総合医療センター産科

リーニングの実態を調査した。

#### 結果

##### (1) 妊婦の感染症 (表1.2)

1993年に当院で出産した妊婦のスクリーニングで陽性者の頻度が高いものはGBS 101人6.12%、HBs抗原陽性者(HBe抗原が陰性のもの)12人0.73%、HBe抗原陽性者5人0.30%であった。その他梅毒4件、ATLA陽性は3件、HCV陽性8件、なおスクリーニング検査でHIV陽性者はいなかった。なお全員にたいするスクリーニング検査は行っていないが性器ヘルペス3件0.18%、風疹2件0.12%、りんご病1件0.06%などであった。

##### (2) 院内出生新生児の感染症 (表3、4、5)

院内出生児1462人のうち、母児感染によると考えられるものとしてGBS感染症1例、CMV感染1例あった。いずれも緊急母体搬送症例であった。

GBS感染症は妊娠26週6日で切迫早産、骨盤位という理由で緊急母体搬送され、すぐに帝王切開にて出生した1042gの新生児であった、

CMV感染は妊娠24週5日で緊急の母体搬送されすぐに帝王切開にて出生した双胎の第一児で、児の体重は692gであった

1991年からの院内出生のGBS感染症は6例、CMV感染症は3例であったが、いずれも児の予後は厳しく、またいずれも地域の医療機関より緊急の母体搬送され、妊娠24-26週という非常に早い時期での早産であった、

このように最近の母体搬送の普及にともない、産科的理由で紹介や緊急搬送された妊婦が母児感染にかかわる感染症を有していることが少な

くないことが判明してきた。このような状況では周産期センターを初めとする、産科症例の母体搬送受け入れ病院が感染症のスクリーニングを充実するとはもち論であるが、搬送元の地域医療機関でも感染症のスクリーニングをも充実させる必要があると考えられた

そこで まず 大阪における産婦人科診療相互援助システム(以下OGCS)の受け入れ病院(35施設)における妊婦の感染症スクリーニングの実態を調査した

表1 母体感染調査結果

暦年	1989	1990	1991	1992	1993	合計
分娩数	1602	1772	1706	1706	1650	8436
感染症						
梅毒	5	8	2	4	4	23
風疹罹患	2	1		2	2	7
風疹 I g M						
性器ヘルペス				5	3	8
口唇ヘルペス				9		9
りんご病				1	1	2
りんご病 I g M				1	1	2
水痘	3	1	2	3	3	12
帯状疱疹	1					1
H I V						
H B キャリアー						
H M s 抗原 (+)	13	13	13	13	12	64
H M e 抗原 (+)	12	15	8	9	5	49
HTLV-1 キャリアー	5	2	2	3	3	15
H C V			3	4	8	15
クラミジア抗原	5	1	1	7	3	17
クラミジア I g A	1			2	2	5
G B S	54	93	115	120	101	483
トキソプラズマ抗体 (+)				1		1
サイトメガロウイルス						
淋菌			1			1
流行性耳下腺炎				1		1

表2 母体感染調査結果 (分娩数に対する頻度)

暦年	1989	1990	1991	1992	1993	合計
分娩数	1602	1772	1706	1706	1650	8436
感染症						
梅毒	0.31%	0.45%	0.12%	0.24%	0.24%	0.27%
風疹罹患	0.12%	0.06%		0.12%	0.12%	0.08%
風疹 I g M						
性器ヘルペス				0.29%	0.18%	0.09%
口唇ヘルペス				0.53%		0.11%
りんご病				0.06%	0.06%	0.02%
りんご病 I g M				0.06%	0.06%	0.02%
水痘	0.19%	0.06%	0.12%	0.18%	0.18%	0.14%
帯状疱疹	0.06%					0.01%
H I V						
H B キャリアー						
H M s 抗原 (+)	0.81%	0.73%	0.76%	0.76%	0.73%	0.76%
H M e 抗原 (+)	0.75%	0.85%	0.47%	0.53%	0.30%	0.58%
HTLV-1 キャリアー	0.31%	0.11%	0.12%	0.18%	0.18%	0.18%
H C V			0.18%	0.24%	0.48%	0.18%
クラミジア抗原	0.31%	0.06%	0.06%	0.41%	0.18%	0.20%
クラミジア I g A	0.06%			0.12%	0.12%	0.06%
G B S	3.37%	5.25%	6.76%	7.05%	6.12%	5.73%
トキソプラズマ抗体 (+)				0.06%		0.01%
サイトメガロウイルス						
淋菌			0.06%			0.01%
流行性耳下腺炎				0.06%		0.01%

表3 新生児感染調査結果 1991年

暦年	1991	(率)	生存	死亡	後遺症
新生児数	1717		1701	16	
感染症					
梅毒					
風疹					
単純ヘルペス					
水痘					
ｸﾘｽﾞｱ					
GBS	3	0.17%	2	1	
サイトメガロウ	1	0.06%		1	
トキソプラス					
HB	4	0.23%	4		
HCV					

表4 新生児感染調査結果 1992年

暦年	1992	(率)	生存	死亡	後遺症
新生児数	1767				
感染症					
梅毒	1	0.06%	1		
風疹					
単純ヘルペス					
水痘	1		1		
ｸﾘｽﾞｱ					
GBS	2	0.11%	1	1	
サイトメガロウ	1	0.06%		1	
トキソプラス					
HB	1	0.06%	1		
HCV					

表5 新生児感染調査結果 1993年

暦年	1993	(率)	生存	死亡	後遺症
新生児数	1462				
感染症					
梅毒					
風疹					
単純ヘルペス					
水痘					
ｸﾘｽﾞｱ					
GBS	1	0.07%	1		1
サイトメガロウ	1	0.07%	1		
トキソプラス					
HB					
HCV					



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 大阪府立母子保健総合医療センターにおける母子感染の実態を調査した。1993年 GBS は妊婦の 6.12%に HBS は 0.73% HBE は 0.30%であった。1991-1993 年の間に新生児の GBS 感染は 6 例、CMV 感染は 3 例、先天梅毒は 1 例あった